（７）東中筋中学校

学　　校　　長　　溝渕　忠
校内研究代表者　　三石　裕子

１．研究主題

「自ら考え、主体的に判断し、行動できる生徒の育成」

①学力の向上

②仲間づくり

２．研究主題設定の理由

本校の教育目標である「知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな生徒の育成」を目指し、研究主題を設定している。

本校には毎年、部活動の関係で校区外から複数名の生徒が入学してくる。それに加え、校区内の小学校の卒業生は何割かが校区外の中学校に進学することもあり、新入生はそれぞれに新たな人間関係を築いていくことになる。また、本校は小規模校であるため、生徒一人一人に教職員の目が届きやすいという、人的には豊かな教育環境にある。その一方、生徒は与えられたことに対しては素直に取り組むが、自分で考え工夫し、学習に取り組んだり人間関係を作ったりする点には弱さが見られる。しかし、自ら高みを目指し一歩を踏み出せるようになれば、伸びる可能性をもった生徒たちである。このような生徒たちに、自ら考え実践できる力をつけたいと考え、研究主題を設定した。

21 世紀を生きる生徒たちには、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、課題を解決する「生きる力」が求められている。その力をつけるために、学力面や生活面の課題に即して、特別部会（学力向上部会・仲間づくり部会）等による具体的提案及び実践を通して、重点目標の達成を図る研修を進めていきたいと考える。

３．研究の進め方と方法

教職員の意思統一を図り、取組を充実させるために、以下の体制で計画的に研究を進めていく。

なお、毎月３回、原則水曜日を校内研の日に設定する。教科間連携におけるチーム会は、原則水曜日の週時程内に位置付ける。

企画委員会（校長・教頭・教務・研究主任・事務職）
- 研究内容を整理し、年間計画（実施日、討議内容、担当者の確認）を立てる。
- 協議事項の原案を検討する。

↓

校内研全体会（全員）
- 年間計画をもとに、担当者からの提案を協議、確認する。

↓

特別部会（学力向上部会・仲間づくり部会）
- 研究主題における重点目標達成のための具体的提案をする。

チーム長会
- 取組の進捗状況の情報交換、連絡調整を行う。

チーム会
- 組織的に授業改善を進め、授業力の向上を図る。

学年部
- 生徒の現状を把握し、成果と課題に応じて対応する。

４．研究内容

（１）基礎学力の定着・学力向上への取組

①わかる授業づくり

・本校における授業づくりのスタンダードの定着を進める。

・授業評価による授業改善の継続。（授業の質を見る項目）

・学期末の総括では、各教科の反省の中に授業評価（生徒用）の結果を資料として入れ、分析を行う。評価には共通項目を設定し、課題に対し全体で対応できるようにしていく。

②教科間連携の取り組み

・全教員が２つのチームに分かれ、組織的に授業改善及び授業力向上に取り組む。

・各チームで、教材研究、指導方法の研究、学力分析や定期テスト等の検討を行い、新学習指導要領で目指す授業の実現に向けて、実践を進める。

・本校生徒の課題や強みを把握し、改善、伸長を図る。

③研究授業

・各学年が道徳の公開授業を実施する。

・教科間連携の各チームで、公開授業を実施する。

・道徳中間発表会で、全学年が授業を公開する。

・授業改善プランによる指導主事訪問では、全員に学習指導案を配布し、１回以上は授業を参観する。

④学習規律の確立

・各教科、学級が連携し意思統一を図りながら学習規律を充実させる。

・授業評価に学習規律の項目を設けて評価し、学級会活動とリンクさせる。

⑤家庭学習の定着

・各教科での家庭学習の習慣化（家庭学習の手引きを活用したオリエンテーション）

・宿題の出し方とその指導

・家庭との連携（学級面談・通信等）

⑥加力学習

・各学年必要に応じて行う。3 年生は 10 月から放課後に補充学習（7 校時）を行う。

・定期テスト前１週間は、７校時目を行う。

・チャレンジタイム（15 分間）を活用し、数学、英語の基礎学力の定着を図る。他教科も必要に応じて行う。

・各教科担任を中心に学年部で取り組む。

⑦「つけたい力」の実現

・教科、領域等の活動を通じて「コミュニケーションをとる力」「表現する力、プレゼン力」の育成を図る。

⑧学力把握の方法

・通知票・・・個人の学力や生活についての状況が分かるようにし、学級担任や教科担任、保護者が生徒の学力の状況を共有し協力関係を構築する。面談を実施し、学習方法や今後の取組のあり方を生徒・保護者・学校が一緒に考える。

・全国学力・学習状況調査、標準学力調査、高知県学力定着状況調査・・・結果を分析、今後の指導に生かす。

・定期テスト・・・学力の定着状況を把握する。

・実力テスト（　3 年：5 回　　1・2 年：1 回　）

⑨図書館活動

・毎朝８：１５～８：２５の 10 分間を一斉読書の時間にあて、授業前の気持ちを落ち着かせるとともに、集中力、自学自習の能力を培う。また、読み聞かせボランティアの方の朗読などを通して、豊かな心情を養い、より豊かな人間性を身につけさせる。また、週１回、朝読書

で図書室を利用できる。（月曜日：１年、火曜日：２年、水曜日：３年）
・学校図書館としての整備を図り、各教科での活用体制を進める。
・図書室の開放（終日）

⑩小中連携教育の推進
・小中合同校内研及び職員会を通じて、小中それぞれの子どもの実態を理解し合うことで共通の課題を見つけ、解決に向けて連携した取組を進める。
・「道徳教育拠点校事業」にかかわる連携を図る。

（２）体力の向上
・体育主任が中心となり、授業を中心に、部活動や行事とも関連付けながら体力の向上を図る。

（３）道徳教育の充実
・道徳教育推進教師を中心に「考え、議論する道徳の授業」について指導方法の研究を進め、授業力の向上に努める。道徳科の評価についての研究とあわせて生徒の道徳性の向上を図る。

（４）人権教育の充実
・人権教育主任が中心となって各学年と調整を図り、県の示す 11 項目の人権課題に沿って計画的に進めていく。その際、人権課題の知識だけでなく、価値的・態度的側面や、技能的側面も合わせて指導していく。

（５）生徒の主体的な活動の充実
・生徒会活動や部活動を通じて、仲間意識や自主性を育て、それぞれの活動の自主的な運営を指導する。

５．今年度の成果と課題

（１）成果
○2 学期半ばから、校内研修のもち方を、１，２週目を校内研修、3 週目を学年部会に変更し、校内研修の日の授業を 5 時間で放課にしたことで、時間にゆとりをもって研修ができるようになった。
○授業改善プランや教科間連携の取り組みにより、本校のつけたい力（コミュニケーションをとる力、表現する力、プレゼン力）を意識した授業づくりを進めることができた。
○ペア活動や班活動の質が少しずつ高まり、生徒同士が高め合っていると感じられる意見交流が増えてきた。それに伴い、全学年とも学習への意欲が向上してきた。
○思考過程のわかるノートづくりを進め、HNGP（ひがなかノートグランプリ）を実施することで、工夫されたノートづくりを全校生徒が共有できた。
○生徒は「2 時間の家庭学習」を意識して取り組んでいる。教科担当も、充実した家庭学習課題を出題している。
○仲間づくりでは、年２回 QU を実施し、その結果を生徒理解や指導に生かすことができた。また、SC と連携し、学年単位でエンカウンターや SC 面談を実施し、生徒理解を進めることができた。生徒会を中心とした仁 JIN タイムでは、生徒間の交流を深めることができた。
○教科間連携の取組では、めあての設定や発問の工夫、めあてに向かってどのように思考させ、意見交換させるかなどを複数の教科で考えることができた。また、学習指導案検討の際、学習指導要領の解説を読むことで、他教科の見方・考え方や小学校の内容を知ることができた。
○道徳の授業の充実に向けて、発問、応答、板書等の検討を継続したことで授業改善が進んだ。評価の取組はある程度定着したといえる。また、小中連携の取組として東中筋小学校の授業づくり講座（道徳）に参加し、指導案検討や授業の実際について学ぶことができた。

（２）課題・来年度へ向けて
○「思考力・判断力・表現力」の育成を目指し、教科間連携等の取組を通して授業力の向上や授業改善を目指す。
○「考え、議論する道徳」の授業に向けて、生徒が考えたくなる発問の設定の研究を継続する。
○教科、領域、他の教育活動とのつながりを効果的に生かせる指導計画を作成する。
○生徒の自尊感情の向上に向け、個に応じた評価ができるよう、生徒理解を進める。